

研究科 6月11日（水）

第2回講座 「動植物のスケッチ技法の習得（その1）」

講師 浅井 糸男氏

日時 平成26年6月11日（水） 10:00～15:00

場所 千葉塚本ビル

テーマは、植物を観察し、描く

今年から新設された研究科。そのテーマは、自然観察と動植物のスケッチ技法を習得する講座である。第1回講座「自然観察の技術と実践」（北澤光子講師）は、5月14日に開催され、今回は第2回目講座となる。浅井糸男講師の指導による「動植物のスケッチ技法習得」5回講座が始まった。

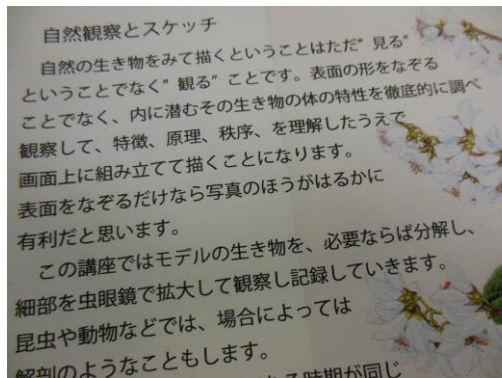
どんな講座になるのだろうか興味深々の受講生。教室には今日描いてみたい植物をそれぞれ持ち込まれている。中にはモンシロチョウを持参された人もおられた。始めは外形を描いてそれで終わりかと思われた人もおられたが、これが見本だと褒められた人の描画を見て、今日のスケッチはボタニカルアートであり。植物を徹底的に観察して、場合によっては分解してより正確に描くという植物学的なアート技法であることに気付く。ようやく意味するところが理解され、それから教室の雰囲気は、ガラリと変わりシーンと静まりかえった。外形を撮る写真と比較すると植物のスケッチは何よりも正確性が求められるという。そのためには植物の形を作る仕組みや原理を知ることが重要であると教えてもらった。



浅井糸男講師



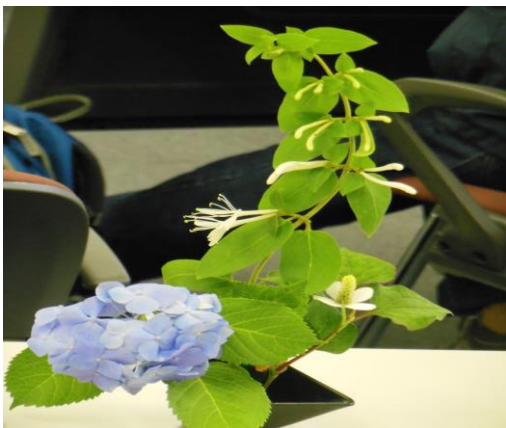
初めはリラックスした雰囲気だったが…



テキストには



指導される講師



持参された植物



先ず観察して、植物の原理・仕組みを知る



集中力が要求される



真剣な表情で



季節の花スイカズラを描く



スイカズラ



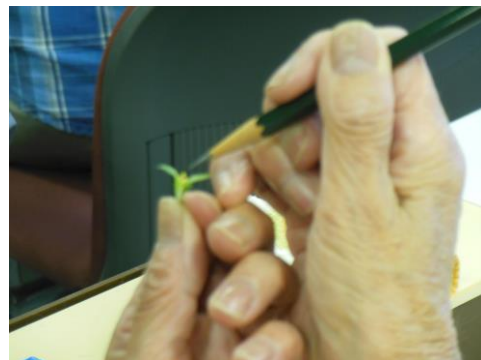
準備するもの 水彩紙 (A4) 鉛筆 (HB) 消しゴム・筆 (面相筆) 観察レンズ



観察する



観察することからボタニカルアート (植物学的アート) は始まる。



観察する



描いてみる



分解して描いてみる。このように部分を観察するが大事と講師。



単純なほど観察しやすい



浅井講師が描かれた見本



講義終わりの決め言葉は、「夢と遊ぶ」